

【熊本県地域婦人会連絡協議会賞】

「ぼくのかぞく」をよんで

芦北町立佐敷小学校 1年 田口 大晴

おはなしのなかの「ぼく」は、やさしい人だとおもいました。また、じしんがくるかもしれないのに、うしを見にいくなんてすごいな、よくやったねとおもいました。おとうとのさんちゃんをおんぶしてにげるのは、たいへんだったとおもいました。ぼくにもおとうとがいるから、つよくてやさしいおにいちゃんになりたいです。

ぼくは、くまもとじしんのことはよくしりません。でも、二ねんまえのあしきたのすいがいのことはおぼえています。いえの中から、水が田んぼや、みちにたまっていくのを見ました。いのししのおや子がにげているのを見ました。いえのうしろの山がくずれて土がながれてきたり、とんねるのまえがどしゃでくずれたりしたのを見ました。とてもこわかったのをおぼえています。こわくてなにもできませんでした。でも、おとうさんとじいちゃんは、いえのまえのどしゃをかたづけたり、ひとりぐらしのおばさんのところにいたりしていました。かぞくのため、みんなのためにこうどうしたふたりはかっこよかったです。

ぼくも、おはなしの中の「ぼく」や、おとうさん、じいちゃんのようにやさしくてつよい人になりたいです。じぶんのことをじぶんでできるようにがんばりたいです。